

第213号

令和8年1月10日発行

発行所

一般社団法人 埼玉県電業協会

発行人 積田 優

編集人 広報委員会

(委員長 矢嶋博和)

事務局

〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋4-1-7(建産連会館内)
https://www.saidenkyo.jp/ E-Mail kyokai@saidenkyo.jp

TEL 048(864)0385

編集 日本工業経済新聞社(埼玉建設新聞)

さいのかがやき
彩の耀

一般社団法人 埼玉県電業協会

耀け埼玉電協!

～2030年に向けて持続可能な開発目標～



生産性向上と技術革新を推進

一般社団法人埼玉県電業協会 会長 積田 優

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。関係機関の皆様におかれましては、清々しい新年を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年の電設業界は、カーボンニュートラルの加速、スマートインフラ整備の推進、省エネルギーへの対応など、社会からの期待が一段と高まった一年でした。さらに、災害に強い地域社会づくりや再生可能エネルギーの導入促進といった課題にも直面し、電設業の使命の重みを改めて実感いたしました。こうした社会的要請の高まりを受け、私たちに求められる責任と役割は、これまで以上に大きくなっています。

一方で、熟練技能者の大量退職や若年層の人材不足、技術継承の停滞など、持続可能性を揺るがす深刻な課題も顕在化しています。これらの課題の解決に向けては、長期的な視点に立った取り組みに加え、行政や教育機関の皆様との連携を一層深めていくことが重要です。引き続き、それぞれのお立場からのご理解とご協力を賜れますよう、心よりお願い申し上げます。とりわけ人材の確保と育成は将来を支える最重要課題であり、協会としても継続的に取り組んでまいります。

本協会では、こうした時代の変化を的確に捉え、業界全体の生産性向上と技術革新を更に推進していきます。AIの活用、GX(グリーントランスフォーメーション)への対応、省力化・デジタル化の推進、また、地域との連携強化など

を通じ、持続可能で安全な社会の実現に貢献してまいります。そして、現場で働く皆様の知見や工夫が、未来を支える力になると信じ、「現場作業員」から「デジタル施工技術者」への進化にも対応した環境整備を進めてまいります。

さらに、魅力ある業界を目指し、働きやすい職場環境の整備にも力を入れていきます。処遇改善や教育制度の充実、若手や女性、外国人を含む多様な人材が活躍できる体制づくりを通じて、誰もが誇りを持てる業界を築いていく所存です。多様性を尊重し、新たな価値を生み出す産業へと進化させていくことは、私たちの責務であり、持続可能な発展に欠かせない取り組みと捉えております。

昨年、当協会は法人設立50周年という節目を迎えました。これまで業界を支えてこられた諸先輩方のご尽力に深く敬意を表しますとともに、日頃よりご支援いただいている関係機関の皆様へ、改めて心より感謝申し上げます。

節目の年として、万博の視察やアメリカでの海外研修、さらに50周年記念式典や祝賀会の開催など、様々な記念事業を実施いたしました。これらを通じて得られた学びと交流の機会は、協会の未来を考える上で大きな糧となりました。多くの皆様にも多大なるご協力を賜りましたこと、改めて深く御礼申し上げます。

この50年の歩みを礎に、次の100年を見据え、より一層の努力を重ねてまいります。

本年も変わらぬご指導とご厚情を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

埼玉県優秀建設工事表彰

12 つくる責任 つかう責任



埼玉県では、発注した建設工事を優秀な成績で完成させた企業、現場代理人などを他の模範として、毎年表彰しています。令和7年度に表彰された設備部門のうち、当協会の会員が受賞した工事は次の通りです。(敬称略)

令和7年度埼玉県優秀建設工事施工者表彰

○知事表彰(優秀賞)	(株)東電工業社	総選除) 23熊谷スポーツ文化公園陸上競技場照明設備更新工事
○知事表彰(特別奨励賞)	(株)エコー	総選除) 23さいたまスーパーアリーナ高圧配電設備改修工事

令和7年度県土づくり優秀建設工事施工者・現場代理人表彰(課所長表彰)

○設備課長表彰	(株)内田電気商会	(ゼロ債務) 23久喜工業高校管理棟ほか全体改修電気設備工事
○設備課長表彰	島村電業(株)	総選除) 23さいたまスーパーアリーナ特高受変電設備改修工事
○設備課長表彰	(株)積田電業社	総選除) 23朝霞児童相談所(仮称)新築動力設備ほか工事
○営繕・公園事務所長表彰	深井電気(株)	23環境整備センター受変電設備等改修工事
○設備課長表彰	貫井省吾(株)丸電	総選除) 23朝霞児童相談所(仮称)新築電灯設備ほか工事
○営繕・公園事務所長表彰	永井昭彦(株)東電工業社	総選除) 23熊谷スポーツ文化公園陸上競技場照明設備更新工事



知事表彰を受賞した2社

『埼玉の未来を築く更なる挑戦』



埼玉県知事 **大野 元裕**

明けましておめでとうございます。

初めに、昨年1月に八潮市で発生した道路陥没事故について、改めてお亡くなりになられた方の御冥福をお祈りするとともに、御家族、関係者の方々にお悔やみを申し上げます。

また、地域の皆様には、長期にわたり多大なる御不便、御迷惑をお掛けしており、心からお詫び申し上げますとともに、様々な御協力に感謝を申し上げます。早期の復旧を目指して工事を進めてまいります。

大規模下水道は更新や点検・調査の手法が確立していないなど、今回の事故は多くの教訓を残しました。

このような事故はいつでもどこでも起こり得るため、本事案で判明した様々な課題を国や全国に提言・発信するとともに、未然防止対策を国と共に推進してまいります。

さて、本県は「人口減少・超少子高齢社会の到来」と「激甚化・頻発化する自然災害などへの危機対応」という2つの歴史的課題に直面しています。活力あふれる埼玉の未来を築くには、これらの課題に敢然と立ち向かい、時代の変化を捉えた中長期的な施策を実行していくことが必要です。

本県ではこれまでも、先手先手の施策に取り組み、着実に成果につなげてきました。

昨年5月に、本県では66年ぶりとなる全国植樹祭を開催し、森林資源の循環利用を図る「活樹」の重要性を全国に発信しました。

7月には、さいたま新都心にイノベーション創出拠点「渋沢MIX」を開設し、様々な主体が集い結びつくハブとして、県内企業のイノベーションを生み出す場となっています。

さらに、企業の価格転嫁をきめ細かく支援する地域連携の取組は「埼玉モデル」として全国から高い評価を得ており、賃上げの正のスパイラルに

つなげて、今年も本県が全国の持続的な経済構築に向けた取組をリードしていきます。

新しい年には「歴史的課題への挑戦」、そして「日本一暮らしやすい埼玉」の実現に向けた取組を更に前に進めていきます。

人口減少下でも強い経済を構築するには、労働生産性の向上が不可欠です。社会全体のDXの推進や渋沢MIXを中心としたイノベーション創出などの取組の加速化と併せ、県庁もデジタルを前提に、業務の生産性と県民サービスの向上を図ります。「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」により持続可能なまちづくりに取り組むほか、医療・福祉人材の確保、サーキュラーエコノミーの推進など将来を見据えた施策を進めていきます。

一方、激甚化・頻発化する自然災害などの危機に対しては、県土の強靱化や「埼玉版FEMA」など各分野での取組を深化させていきます。

さらに、今年は現行の「日本一暮らしやすい埼玉」5か年計画の総仕上げの年として、「あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる社会」の実現を確かなものにしていきます。ジェンダー主流化の視点に立って県政運営を進めるとともに、「こどもまんなか社会」の実現を目指した取組を更に充実させていきます。

今年11月には、全国健康福祉祭、「ねんりんピック」を本県で初めて開催します。人生100年時代を豊かに過ごせる社会づくりを進めるとともに、埼玉の自然や文化、食などの魅力を全国に広く発信していきます。

また、近年は本県のいちごや梨などが全国で高い評価を得ており、今年は県育成の最も新しいお米「えみほころ」の本格生産も始まります。是非、県のおいしい農産物を御賞味ください。

今年は「午（うま）」年です。埼玉県が未来に向けて力強く前進する年となるよう一般社団法人埼玉県電業協会の皆様と共に「ワンチーム埼玉」で取り組んでまいります。

協会から6項目要望 県設備課と意見交換会

17



積田会長



田島課長

昨年10月21日、さいたま市内の埼玉会館で、県設備課との意見交換会を開き、協会提出の6事項と、設備課から出された2事項について意見を交わし認識の

共有を図りました。

当日は県側から、設備課の田島和彦課長をはじめ、企画・設備技術や電気・機械、県営住宅設備など関係する主幹や担当者のほか、管財課と営繕・公園事務所からも幹部が出席。一方で協会からは、積田会長ら役員11人が出席しました。

あいさつで積田会長は「安全安心なまちづくりやインフラを守っていくため、協会一丸となって取り組んでいくので、本日は建設的な意見を出し合える場としたい」と述べ

ると、田島課長は「今年の設備課の工事発注業務は、一部再公告案件もあったが、ほぼ順調に進捗していると捉えている。今後はゼロ債務負担工事の発注予定だが、引き続き会員の皆さまのご協力をお願いしたい」と協力を呼び掛けました。

意見交換では協会から①4週8休体制②VR・DX・熱中症対策③機械設備工事との抱き合わせとなる発注④調査費⑤積算価格の算出⑥人材確保のための時間外労働一〇の6項目について要望。その後、設備課からは①入札公告時における見積価格の公表②設計の簡素化による工事発注一〇の2項目について、協会の意見を聞かれました。



諸課題で意見を交わしました

ミャンマーの学生と意見交換 多様な人材確保育成事業セミナー

8



昨年10月29日、多様な人材確保育成事業セミナーを、さいたま市内の埼玉建産連研修センターで初めて開きました。

冒頭のあいさつで人材育成委員長を務める佐野雄一朗副会長は「今、各社で問題になっている人手不足に関する講座として開催した。長時間労働の問題を解決するために、建設ディレクターという資格があるので、本日は第1部で（一社）建設ディレクター協会から講師を招き、どのように進めれば各社が有効活用できるのか、そうした話が聞ければと思っている。第2部は、協会員でも外国人を雇われている会社もあると思うが、どうやって人手不足の時代を生き延びていけるのかというところの糸口としていただければ」と期待しました。

セミナーの第1部は、建設ディレクターについて建設ディ

レクター協会の藤田歩美氏が講話。第2部は外国人技術者雇用について、留学生就職支援ネットNAPの田口芳弘代表理事が、外国人採用の問題点や外国人材の日本就職までの経路、募集から内定までの流れを説明し、実際にミャンマーの教室とZoomで通話を行いました。



ミャンマーの学生とZoom通話を行いました

会員や自治体から100人 令和7年度第2回技術講習会

9



昨年11月25日、本年度第2回目の技術講習会を、さいたま市内の埼玉建産連研修センターで開きました。当日は会員企業のほか、県や市町村の担当課職員も参加し、全体でおよそ100人が集まりました。

積田会長はあいさつで講習内容を説明した後、「われわれの関心が高いのは価格、納期、寸法といった問題。そうした内容の話もしていただく」と述べ、有意義な講習となるよう期待しました。

講習は第一部と第二部に分かれ、第一部はパナソニックがGHP空調の導入メリット、EHP業界動向・補助金の説明、ルームエアコン省エネ基準の適合性、商品価格改定の説明を、それぞれ担当者が行いました。同社は、部品・部材の調達費用の上昇などからパワーツールが同月から、電設資材商品・システム機器・照明器具は本年1月から、分岐水栓は2月から、ビルトイン食器洗い機は3月から、住宅設備用エアコンは4月から価格改定を実施すると説明さ

れました。

第二部は主に、本年4月から第三次判断基準がスタートするトップランナー変圧器をテーマに、富士電機は第三次トップランナー変圧器や第三次のヒューズ選定と新発売する励突抑制装置について。さらに東和電機工業が第三トップランナー変圧器への移行に伴う配電盤の変化・検討課題について、それぞれ説明していただきました。



価格改定時期も示されました



埼玉県電業協会50周年記念式典・祝賀会

「技術と信頼」 未来へ力強く前進

正会員記念撮影



大野知事が記念講演



式典では、大野知事に記念講演を行っていただきました。大野知事は、「日本一暮らしやすい埼玉へ」をテーマに、埼玉県が抱える歴史的課題を2つ示したうえで、これらの課題を克服するため、強い埼玉県経済の構築として戦略会議の設置、行政手続きのオンライン化推進、DXを前提とした県庁の実現、激甚化・頻発化する災害等危機対応として人口減少社会におけるまちづくり、切れ目のない公共事業とソフト対策を示し、埼玉の未来に向けた話題で講話されました。



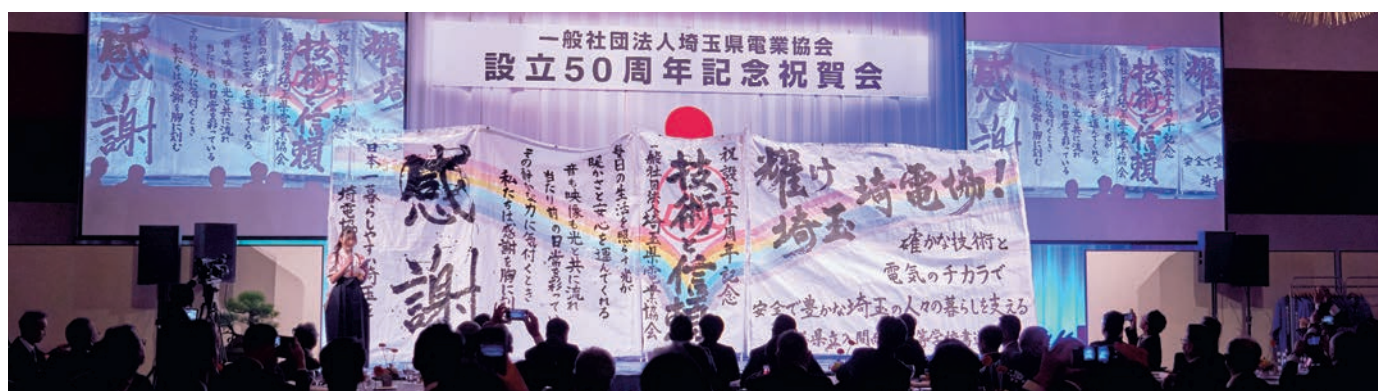
感謝状が贈られた歴代会長



寄附目録を贈呈し、大野知事から感謝状を贈呈されました



50周年を祝い鏡開き

入間向陽高校の書道部による
オーブニングアートラクション

協会設立50周年を記念した記念式典・祝賀会を昨年11月7日、大野元裕知事や白土幸仁埼玉県議会議長をはじめ多くの来賓を招いて開き、さいたま市内のロイヤルパインズホテル浦和で、節目の年を盛大に祝いました。

協会は1975年に県内電設業界の健全な発展と技術力の向上、会員相互の連帯強化を目的に設立され、この11月に設立50周年を迎えました。

挨拶で積田会長は「この50年という長い歩みの中で、私たちは社会の変化に対応しながら地域社会を支える専門団体としての責務を果たしてきました。ここまで進めることができたのは、協会の礎を支えた先輩方のご尽力、日々現場で努力を重ねてこられた会員企業の皆さま、私たちの活動を温かく支えてくださった官公庁、関

係団体の皆さまのおかげです」と感謝の言葉を述べました。続けて「多様な人材が夢と誇りを持ち、生き生きと活躍できる、持続ある電設業界を実現することが私たちの使命。会員各社とともに、これからも力強く歩みを進めていきます」と決意を新たにしました。

多数出席された御来賓のうち、大野知事、白土議長、村井英樹衆議院議員、橋本雅道関東地方整備局長（代理・中山義章営繕部長）、清水勇人さいたま市長（代理・日野徹副市長）、田村琢実県議会議員、柿沼貴志県議会県土都市整備委員長から、温かいご祝辞をいただきました。

式典では、協会の運営に尽力した歴代会長として、第5代会長の佐野良雄氏（佐野電機）、第6代会長の荻野勝治氏（おぎでん）、第7代会長の島村光正氏（島村電業）、第8代会長の岡村一巳氏（岡村電機）に、積田会長から感謝状が贈られました。

また50周年を記念して、地域文化振興のため埼玉県文化振興基金に協会から寄附目録を贈呈。大野知事からは感謝状をいただきました。

祝賀会を盛り上げた、
はなわさんのミニライブ

説明会に担当者ら参加 県住保守点検業務



埼玉県住宅供給公社と当協会は昨年12月2日、県営住宅消防・電気設備等保守点検業務実施説明会を、さいたま市内の埼玉建産連研修センターで開き、業務を担当する企業の担当者が参加しました。

この説明会は、消防点検が実施される8月と2月の前に実施しており、埼玉電協が報告書のとりまとめ等を担当しています。冒頭のあいさつで同公社技術部の加藤正男副部長は「夜間や休日の対応、近年は施設の老朽化や落雷等の自然災害も多くなっており、皆さまに感謝申し上げます。県営住宅が老朽化する中、変わらないように維持していくことは大変なことですが大切なこと。そうした業務に携わっている皆さまのご尽力があって県営住宅の安心安全な生活ができているとわれわ

れも感じており、今後も皆さまの協力が不可欠」と協力を呼びかけました。

説明会は最初に、当協会の荒川専務理事が、点検実施の方法や点検結果報告書の作成について、また、報告書の提出方法などを説明。その後に公社から、年末年始の連絡体制など業務全般における諸注意などがありました。



点検業務を行う各社担当者らが参加しました

三県電業協会 横浜で連絡会議



埼玉・千葉・神奈川の三県の電業協会は昨年11月17日、本年度の三県連絡会議を横浜市内で開き、当協会からは積田会長ら6人が出席しました。

開催県である神奈川県の山口会長は「われわれの業界環境は、人出不足や資機材の調達等さまざまな課題が山積している。本日の意見交換の内容を各会員が持ち帰り、今後の協会活動や企業活動に生かせる意義のある会議となれば」と有意義な会となるよう期待するあいさつがありました。

今回のテーマは①スケルトン工事後に電気設備が発注される事例の有無について（千葉県）②災害協定の確認について

（千葉県）③公共建築のLED化室の進捗状況と発注形態について（埼玉県）④DX対応について（埼玉県）⑤人材確保対策について（埼玉県）⑥人材不足対策について（神奈川県）それぞれ意見を交わしました。



埼玉電協からは6人が出席した

受験準備講習会・技能講習・特別教育

第一種電気工事士 技能試験突破へ5日間学ぶ



実習や個別指導も行われました

昨年10月14日、21日、28日、11月4日、11日の5日間、第1種電気工事士の技能試験受験準備講習会を、埼玉建産連研修センターで開き、5人が参加しました。

講師はケイ・教育企画サポート事務所が担当しました。

講座は、初日にオリエンテーションが行われた後、午前中は技能試験の基礎知識について座学を受け、午後は複線図の実技訓練を行いました。第2回以降は、公表問題の実習を中心に、公表問題を解いたり、映像を視聴するとともに、個人別に技能指導を行い、理解を深めました。

高圧・特別高圧電気取扱者で特別教育

昨年11月20日と21日の2日間、埼玉建産連研修センターで、高圧・特別高圧電気取扱者の特別教育を開き、15人が参加しました。講師は、ケイ・教育企画サポート事務所の茂木次郎氏が務め、活線作業・活線近接作業の方法などを、わかりやすく解説しました。

この特別教育は、労働安全衛生法に基づく法定教育。初日は、電気設備や安全作業用具に関する基礎知識や関係法令を学び、2日目は活線作業・活線近接作業の方法や開閉器の操作方法、停電・復電の操作手順について説明しました。最後に、確認テストを経て、受講者には修了証が手渡されました。



職長・安全衛生責任者能力向上教育

職長・安全衛生責任者能力向上教育を昨年10月27日、6人が参加して埼玉建産連研修センターで行いました。

前回に引き続き、RSTトレーナー・新CFTの浜浩子氏が講師を務め、職長・安全衛生責任者が行うべき労働災害防止に関することや、労働者に対する指導、監督の方法に関すること、危険性や有害性に関することなどを学びました。また、リスクアセスメントを応用した作業手順書の作成や可搬式作業台による壁面補修作業のグループ演習や発表を行い、参加者には修了証が交付されました。



「ビビ」と名づけた日



内山電設株式会社 代表取締役 内山 祥章

子どもが成長し、家の中が少し静かになった頃、妻と「そろそろ犬を飼いたいね」と話すようになった。どうせ迎えるなら保護犬にしよう——それは自然な流れだった。新しい命を“買う”のではなく、行き場を失った命に“家族”を与えたいと思った。

埼玉県内で開かれる譲渡会をいくつか訪ねた。人懐っこい犬たちは人気で、多くの人が笑顔で抱き上げていた。そんな中、少し離れたサークルに一匹だけ入られている小さなロングコートチワワがいた。毛並みは美しく、目が不安そうに揺れていた。人を遠ざけるように。

スタッフの方が言った。「この子は繁殖犬だったんです。とても怖がりで、“ビビり”なんですよ」。

名前を呼んでみると、小さく耳が動いた。その反応だけで十分だった。私たちはそのまま“ビビ”と名づけ、家族として迎えることにした。

家に来たばかりのビビは、尻尾を下げ、音にも人の気配にも怯えていた。抱こうとすると小刻みに震えた。その姿を見るたびに、彼女の過ごしてきた時間の

重さを感じた。

日を重ね、少しずつ心を開きはじめたビビが、ある朝、小さく尻尾を振った。ほんの一瞬だったが、その仕草が忘れられない。あの日、彼女はようやく「もう怖くない」と伝えてくれたように思えた。

保護犬を迎えるというのは、過去を受け入れ、共に新しい時間をつくることだ。彼らが再び人を信じる姿は、私たちに“信じる勇氣”を思い出させてくれる。

今も多くの犬や猫が、飼育放棄や繁殖引退によって行き場を失っている。譲渡会に足を運ぶことは、そんな現実に向き合う第一歩かもしれない。

安心して眠るビビの寝息を聞きながら、私はそっと思う。——

癒されているのは、きっと私たちの方だったのだと。



主要事業

企業対策セミナー



第4回 エクセルのAI活用方法学ぶ

昨年12月12日、さいたま市内の埼玉教育会館で、本年度第4回目となる企業対策セミナーを開きました。今回は6月に開いた第1回、10月に開いた第3回でもテーマとしたAIについて、参加者の関心や要望が高かったことから、第4回は「エクセル業務を劇的に変えるAI活用実践ワークショップ」をテーマに開催しました(写真)。



企業対策委員会の吉村委員長は「第3回のセミナーで行ったアンケートで、もっとAIを勉強したいという声が多かったことから、今回は、より実践的・

実務に役立つ内容とするためエクセルをテーマとした」と説明しました。

講師は、前回に続き(一社)中小企業AI推進協会の松永雪理事が務めました。松永理事は「1回目と2回目の間は3カ月あり、今回も3カ月経っての開催となったが、この間のキャッチアップが大変」とAIの進化の早さを説明。続けて松永理事は、エクセルは面倒な定型作業を代行させるアシスタントから、データの本質を分析・解釈させるアナリスト、さらに複雑な課題解決を、ともに計算・実行するパートナーへと「エクセルのつきあいが根本から変わる」と唱え、エクセルは操作方法を悩む時間は終わり、専門知識を生かして何を達成したいかをAIに伝えることで、価値を生む仕事になると伝えました。

地元業者の参画を要望

さいたま市新庁舎建設工事で

昨年10月30日、積田会長、吉村さいたま支部長、荒川専務理事がさいたま市を訪れ、「さいたま市新庁舎建設工事における地元電気工事企業の活用促進に関する要望書」をさいたま市長宛に提出しました。

当日はさいたま市の佐野篤資都市戦略本部長、藤野知之総合政策監、新庁舎等整備担当の尾里雅紀副参事3人にお願いいただきました。

内容は、さいたま市が計画している新庁舎の建設工事に、地元業者が優先的に施工業者として参画できる仕組みの構築を要望するもので、積田会長が佐野本部長へ要望書を手渡し、説明しました。



協会のうごき

12月

- 2日 県営住宅 消防・電気設備等保守点検業務
第2回 実施説明会
4日 第4回 正副会長会議
5日 さいたま支部 支部会議
12日 第4回 企業対策セミナー
16日 第9回 理事会

第2回 収益事業検討会議

26日 仕事納め

1月

- 5日 仕事始め
6日 新年挨拶まわり
15日 イノベーションセミナー
賀詞交歓会
22日 埼玉版FEMA九都県市合同防災

訓練・図上訓練

- 27日 第4回 事故防止対策委員会
第3回 企業対策委員会
29日 第3回 人材育成委員会

2月

- 10日 第1回 技術研究委員会
13日 第3回 総務・第3回 広報委員会
17日 第10回 理事会

(一社) 埼玉県電業協会会員

支部長◎ 副支部長○

さいたま支部 (17社)

- 浦和電気工事(株)(南区)
(株)エルテックコーポレーション(見沼区)
○大塚電設(株)(浦和区)
(株)岡村電機(緑区)
毛塚電気工事(株)(大宮区)
埼玉田中電気(株)(南区)

- 埼玉電設(株)(中央区)
栄電業(株)(上尾市)
新生電気工事(株)(見沼区)
(株)積田電業社(浦和区)
○中村電設工業(株)(岩槻区)
(株)龍島電機(大宮区)
(株)万代電気工業(桜区)
(株)松岡電気工業(桜区)
(株)丸電(西区)
瑞穂電設(株)(北区)
◎(株)八洲電業社(北区)

東部支部 (14社)

- (株)内田電気商会(久喜市)
(株)大久保電気(越谷市)
倉持電気(株)(三郷市)
三光電気工事(株)(上尾市)
(株)三進電気工事(上尾市)
島村電業(株)(上尾市)
○(株)新電気(三郷市)
(株)大広電気(八潮市)
太洋電設工業(株)(越谷市)
(株)高岡電気工業(松伏町)
ニチデン技術サービス(株)(北本市)

西部支部 (20社)

- ◎深井電気(株)(北本市)
富士電気工業(株)(北本市)
(株)弓木電設社(白岡市)
○飯島電器工事(株)(川越市)
(株)市之瀬電設(志木市)
(株)ウェーブゼンケン(入間市)
(株)大庭電気商会(川越市)
(株)岡島電気商会(川越市)
(株)おぎでん(川越市)
木下電機(株)(入間市)
クマタ(株)(狭山市)
(株)三共電気商会(和光市)
(株)関根電気商会(川越市)
(株)電成社(川越市)
(株)中村電気(新座市)
◎橋電(株)(所沢市)
(株)橋本電工(所沢市)
フジヤ電気工事(株)(川越市)
(株)北産電設(所沢市)
○(株)まつもと電機(和光市)
(株)明電社(川越市)
(株)ヤマスズ(飯能市)
(株)ヤマト・イズミテクノス(ふじみ野市)

南部支部 (6社)

- ◎内山電設(株)(川口市)
(株)佐久間電設(川口市)
○佐野電機(株)(川口市)
三位電気(株)(川口市)
高山電設工業(株)(川口市)
那須電機工業(株)(川口市)

北部支部 (15社)

- イーテクノス(株)(熊谷市)
○(株)イトラスト埼玉(行田市)
(株)内村電気(深谷市)
(株)エコー(深谷市)
共和電機(株)(秩父市)
熊谷電機(株)(熊谷市)
(株)栗原電機(深谷市)
霜田電気(株)(皆野町)
中外電気工業(株)(深谷市)
(株)東電工業社(熊谷市)
(株)長井電機(熊谷市)
(株)沼尻電気工事(深谷市)
(株)早川電工(鴻巣市)
松山電設(株)(東松山市)
◎(株)躍進電気(深谷市)



11月14日 県庁オープンデー

150人がエコ工作づくり



て、多くの子供たちから人気を集めていますが、当協会では協会設立50周年を迎えたことから、この節目に合

わせて出展規模を充実。新たにソーラーカー、ソーラーヘリコプターを加え、ソーラーバッタと合わせて計160個を用意して、およそ15人ずつ10回にわけて工作体験の場を提供しました。子供たちは、スタッフとして参加した協会役員の指導を受けながら、太陽光で動く仕組みを体験しながら、ソーラーシステムを楽しく学びました。

